

営業も総務の仕事も すべてが今につながっている

総務パーソンの専門性とは何か、一度ならず自分自身に問いかけてみた人ものではないだろうか。二〇余年の経験と知識を生かし、さらに専門性を高めて社会保険労務士に転身した小岩和男さんに、総務パーソンのキャリアデザインなどについて伺った。

日本橋人事賞金コンサルタント
社会保険労務士小岩事務所 代表
小岩和男さん



営業で培ったスキルを 総務で生かす

私鉄系不動産会社に入社し、営業の第一線でマンション販売や不動産仲介業務を六年経験したのちに総務人事担当部署に異動、約二〇年間、総務パーソンとして奮闘してきた特定社会保険労務士の小岩和男さんも、異動当初は想定外に忙しい日々で戸惑ったという。

「青天の霹靂といえは大きいです、営業から総務人事担当部署に異動したときには正直驚きました。総務職は営業職と違って、数字的な達成感がない上、やって当たり前といった周囲からの見方があるような感じがして、一年くらいは悩んだことを覚えています。しかし、社会保険労務士の資格取得



不動産仲介を担当していた営業パーソン時代。「20歳代はずっと営業畑で、当時はまさか管理部門に異動になるとは思わなかったです」

後に独立開業し一〇年目を迎えた今では、総務に携わる機会を与えてくれた上司に感謝しています。営業時代は入社数週間で説明会の司会を務めるなど、未経験だからこそ何にでもチャレ

ンジしてきました。そして総務に異動してからは、営業で身に付けた話す力、聞く力、数字感覚を生かし、とにかくさまざまな変化球を打ち返してきました。この両方の経験なくしては、今の自分は語れません」

経営者に 近い立場だから 得られたもの

小岩さんの経歴から総務パーソンとして従事した分野を挙げれば、新会社設立業務、社会保険新規適用・編入業務、就業規則制定・改定・三六協定作成、労働組合との折衝、人事制度・賃金制度・退職金制度の制定、社員採用・教育など実に多種多様だ。

「何でも自分でやらなければならぬという環境で、その当時から総務部門はより経営者に近い存在のように感

じていました。総務の楽しさがわかってきたのは、新卒採用を担当したところからです。面接などで学生たちと接し、彼らの将来はどうなっていてほしいか、そしてどのような職場環境であれば彼らは活躍できるのか、と考えていくと、そのために今やるべき会社の課題も自然と見えてきます」

小岩さんにとってエポックともいえる出来事となったのは、一九九三年の東武不動産株式会社と株式会社東武百貨店の合併を担当したことだ。グループ企業間ではあったもののまったくの異業種だったため、すべての業務が初めての経験だったという。半年から一年をかけ、合併に向けて数名のチームで両社の許認可関係、重複した部分の整理、労使交渉などにあたった。

「公正取引委員会や現在の厚生労働省にも足繁く通いました。相当に大変

でしたが、そのときの知識や実践が今の仕事に一〇〇パーセント生かされていくと感じています」

労使交渉などの厳しい局面には、どのように取り組んだのだろうか。

「確かに社員と経営者の間で立ち位置は難しいものがありました。私の基本的な姿勢はじっくり話を聴くこと。両者の意見を吸い上げることに努めました。大事なものは、当たり前で真摯な態度で臨み、労使双方から信頼を得ることです。総務という職務では労使交渉のように、社員でありながら経営的視点に立つて行動しなければならぬことが多いです。そうしたときにブレないことが、総務にとってもっとも必要な資質だと思います」

その後、本社を有明に移転する業務にも携わり、激動の時代に総務を取り仕切ったことで、「現在の顧客からさまざまな相談を受けても大抵は解決できるだけの知識と自信が培われました」。

変化への対応力を身に付けておく

小岩さんは続ける。「私は総務パーソン時代から、いわれたままやることは単なる作業であって仕事ではないと思っています。考えながらやること。経営者に意見するのは勇気がいりますが、しっかり理論武装し、必要があれば外部の協力者にお願いすることも一つの方法です」。また、勉強すること

を忘たつてはいけない、と強調する。

「総務人事担当部署に着任した当時は、前任者からの引き継ぎ資料だけでは仕事の内容を理解できず、商法（会社法）や労働基準法や実務の知識について、本を読んだり詳しい人の話を聞いたりして勉強しました。勉強中であつても球がドンドン飛んでくるので、調べながら打ち返して実践で身に付けた感じです。本当に我ながらよくやつたと思っています」

総務はつまるところ、人を扱う部門。働く社員のルールブックである就業規則や、労務関連の法令、年金などについての知識を習得し、常に最新情報にアンテナを張っておくことは最低限やっておくべきだ、と小岩さん。その上で、前述の経営者視点で課題を見つけ、解決への手段を考え、さらにその段取りがつけられるようになれば、

一流の総務パーソンだ、という。

「社会保険労務士というと単に手続きを代行してくれる人だと思つている方もいますが、私の今の仕事の大半は人事経営のコンサルティングです。中小企業の経営者の信頼に応えるために、今でも日々勉強は欠かせません」。

たとえば、ファイナンシャルプランナー（FP）も、総務パーソンにとつて役立つ資格の一つです。もちろん、資格がすべてではありませんが、せつかく総務になったのだから義務ではなく、自分自身がおもしろいと感じる部分を伸ばしてみることをおすすめします。人事総務に関連する情報は積



総務人事担当部署に異動してからは、会社合併から労組との交渉、採用・教育までありとあらゆる業務を経験した

極的に求めていかないと、すぐに陳腐化してしまいます。専門家を含め、社外の方々と交流するなどして総務パーソンとしての価値を自ら高めていっていただければ、思っています」

小岩和男さんキャリア年表

1982年4月	東武不動産株式会社（東武鉄道（株）グループ企業）入社、新松戸販売センターにて新規マンション販売 以降、船橋営業所・渋谷営業所にて不動産仲介業務担当
1988年4月	総務人事担当部署に異動
1990年10月	東京都知事より社会保険委員を委嘱される ・組織再編による新会社設立業務／会社合併、転籍に伴う手続き／社会保険新規適用・編入業務／厚生年金基金編入業務 ・就業規則制定・改定・三六協定作成／労働組合との団体交渉／人事制度・賃金制度・退職金制度の制定・変更／社会労働保険関係各種申請手続き業務 ・社員採用・教育業務 ・商業登記・各種許認可申請
2003年	社会保険労務士試験合格後登録
2005年	日本橋人事賃金コンサルタント 社会保険労務士小岩事務所設立

企業 DATA

日本橋人事賃金コンサルタント
社会保険労務士小岩事務所

所在地：東京都中央区日本橋3-2-14
日本橋 KN ビル4F

事業内容：就業規則その他諸規定の整備／人事制度賃金制度の作成／高齢者雇用のコンサルティング／社会保険労働保険手続きのアウトソーシング／経営者、従業員様に対する労務セミナー、退職時セミナーの実施／行政による調査立会い、その後の是正勧告などの対応支援／経営者、従業員その他ご家族の年金相談／助成金申請代行

ホームページ：http://www.koiwaoffice.com/